

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2592200105		
法人名	株式会社Beスマイル		
事業所名	グループホームBeスマイル新旭		
所在地	滋賀県高島市新旭町安井川1丁目12-1		
自己評価作成日	平成26年 5月19日	評価結果市町村受理日	平成26年 7月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポンアクティブライフクラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂店 2階		
訪問調査日	平成26年 6月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地が約400坪あり、その中に畑や外でくつろげるスペースが確保されているなどゆったりとして開放感のある事業所です。また建物も開設して3年と新しく、利用者が日中過ぐすりビングは、吹き抜けになっているなど開放感があり、利用者がゆったりと生活して頂ける空間を設けた事業所です。その中で職員は、誰にでも笑顔で、又、利用者・家族にも不安を持たれないよう誠意を持って接している。特に利用者には、安心感をもってもらえる居場所となるよう仕事に工夫と努力をしている。再訪される様、過ごし易い空間作り・雰囲気作りを努めている。ホーム内でも季節感を味わって頂ける様、ディスプレイにも工夫し、実際に戸外にも出掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅に近く、広い敷地を持つ自然環境に恵まれた事業所で、3年前に新築された木造住居である。経営者の「三方よし」の考えのもと、利用者・家族、スタッフ、地域の3者について「スマイル スマイル スマイル」の理念を掲げている。管理者と職員のチームワークも良く、入居者は職員と共に笑顔を絶やすす事無く日々共同生活を送っている。職員の多くは介護福祉士などの有資格者で介護に熟達しており、入居者・家族とも安心して過ごす事が出来る。厚生労働省の補助対象の「介護人材育成研修・専門技術取得コース」に職員全員が毎月参加し更なる介護レベルの向上に取り組んでいる。職員、家族協力しての支援のもとに、入居者は互いに助け合い感謝合って自立をめざして過ごしている様子が見られる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の知的資産を、社内研修で確認する中で、理念の意味するところを理解した。今後は、理念が事業にどのように生かされ、生かしていくのかを話し合い、深めていきたい。	法人の名前が表すように、理念は「スマイル スマイル スマイル」で、利用者・家族、スタッフ、地域の3者について事業者も「三方よし」の思想を踏襲し理解を深めている。笑顔を絶やす事無く馴染んだ地域生活の継続支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所以来、地域との交流には至っていないが、近隣の方へのあいさつから、交流を広げていきたい。自治会には加入し、地域の情報は収集している。事業所の近くの方が働いて頂いているので、そういったところの関わりも	自治会に加入し、地域情報を収集している。回想法、フラダンス、音楽療法などのボランティア団体の来訪がある。中学生や小学生のボランティア体験活動を受け入れているが、地域との交流は不十分である。	根気よく情報発信に努め、更に地域との交流が深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が市の認知症ネットワーク会議に参加するなど、少しずつでも地域貢献できるように努力している。そういった活動を通して、身近な地域貢献が出来る様努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催している。その中で、日頃の活動内容を報告したり、課題を相談させて頂き、家族や行政からアドバイスを頂いている。議事録の作成に取り組んでいる。	偶数月に開催し、現状報告、各種相談をしてサービス向上に活かしている。外部評価結果も報告し、目標達成計画についてもモニター役を依頼している。議事録を作成し、ロビーに掲示し、外部に対して開示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が認定更新の機会等に、利用者の暮らしぶりやニーズの具体を連携を深めている。事業主も市の担当課とは、連携が取れるように努力している。	行政窓口とは管理者研修会で情報交換する以外に認定更新や指導を受けに出向いた際にも機会を見つけて情報入手に努めている。月1度市の介護相談員を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、基本的な事は理解している。職員の少ない時等やむを得ない時には、安全性を考え一時的に施錠する時もある。基本的には開放している形を取っている。	職員の多くは介護福祉士等の資格を有し、身体拘束については充分理解し遵守している。研修会が有れば参加しており、見守り支援を基本にケアしている。過去に徘徊があったが、地域住民の協力で問題無きを得た。特別な場合を除き夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や、ミーティング等で再確認して日々のケアの中で常に虐待に値するか？を問い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中で、成年後見制度を利用している方がおられる。研修で今後理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の説明時には、特に契約解除の要件については、入院したら即契約解除等といった事はない等、利用者が不利益にならない事を伝え、安心して契約を結んで頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やそれ以外でも家族の方と会話をし、意見や要望を聞いて利用者の対応に生かしている。	月2～3回家族の来訪が有り、面談して要望や意見の吸収に努め、何でも言える雰囲気作りに留意している。電話でも報告・相談し、事業所運営、介護計画に反映している。意見箱を設置しているが投入意見は無い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議だけに留まらず、平日頃や特に問題が起こった時は、職員の気づきやアイデアを聞き出し参考にしながら、運営するように心がけている。	毎月のケア会議を兼ねた職員会議は20時から2時間かけて全員参加して実施している。会議では意見や提案が出しやすいように雰囲気作りをしている。職員の意見よりプランターでの花栽培、畑の菜園手入れを実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員夫々の状況に応じて勤務体制を組み、勤務を継続できるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度は、1年間を通じて、外部の講師を招いて全職員参加の社内研修を実施し、認知症に対する理解を深めたり、介護技術を学んだりした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携の事業に参加し、視察や研修に参加している。また、市内の同業者との会議が定期的であり、情報交換等を通じて連携が深まっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、サービスの開始を受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞かせて頂くようにしている。話を聞くことで、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によってはケアマネジャーや他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ること努め、共に支えあえる関係作りに留意している。支援する側される側の意識を持たず、協働しながら和やかな生活が送れるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族の会う機会を持つ為にも、定期受診や季節の衣類の入れ替え等、家族の意向に沿いながら互いの関係が切れないように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人の来訪時には、話やすい場所を提供し、また本人が、出かけられるよう支援している。	美容院や理容所など馴染みの場所への送迎支援をしている。家族の協力を得て実家への立寄り、墓参り、更に法事に出席し親族と顔合わせしている。知人の来訪も有り家族には馴染みとの関係継続への協力を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間については、職員が調整役として中に入ったりする。また、性格の合わない利用者間は、席を工夫するなどしてトラブルが少なくなるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心掛けている。今までの関係を大切にして、家族からの要望があれば終了後も支援に努めていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。	フェースシートを利用し思いや意向を把握している。入居後も把握に努め、家族や本人から新たに得られた情報は介護記録表や連絡ノートなどに追記し職員間で共有し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の訪問時等に生活歴や好み、暮らし方を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者の日々の状況把握に努め、持てる力を生かし支援する様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、本人の思いや意見を聞いたり、家族や関係者(医師、訪看)の意見を聞き、会議などで話し合い、本人がより良く暮らすためのケアに生かすようにしている。	日々のモニタリング結果を日誌に記入し、職員全員参加のケア会議で入居者全員のモニタリングをしている。家族の希望も聞いて3カ月毎及び介護度変更時に介護計画を再作成し、その都度家族の承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、血圧や体温、排泄等身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉やエピソード等を記録している。いつでも全ての職員が確認出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の春祭りや文化祭等に参加している。今後も地域のイベントに出来るだけ参加していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し通院介助を行ったり、複数の医療機関と関係を結ぶように努めている。	事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医を継続している利用者も多い。通院受診には家族が対応出来ない時は職員が代行して支援している。毎週来所の医療連携先の訪問看護の情報は家族とも共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携を結んでおり、週1回の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行って貰っている。緊急時は、電話相談にも応じて貰い、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病状を把握し、本人の支援方法等に関する情報を医療機関に提供している。また、医療機関や本人・家族と連携をとりながら、早期退院出来るように対応していきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針・同意書等の書類は整備出来ている。今年度は対象者がおられ、看取りの対応を行ったが、病院に入院され退居となった。	医療連携体制加算を採用し、方針を文書で説明し家族の同意を得ている。「看取りに関する指針」も文書化し、入居時には事業所が対応し得る最大のケアについて説明している。終末期に近づいた入居者1名とは同意書を交わしたが、看取りの経験は未だ無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習などの全員受講を進め、備えていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域避難所への避難訓練は実施した。また消火・通報訓練を実施した。地域の訓練に参加出来ていないので、働きかけていきたい。	ホームセキュリティー会社の指導の下、年2回の消火、避難訓練、内1回は夜間を想定した訓練を実施したが、消防署や地域住民の参加は無かった。各種設備点検結果は消防署に提出し、食料品、備品は備蓄している。	防災マニュアルの作成と周知徹底及び防災訓練には消防署、地域住民の参加を得て災害に備えて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を傷つけないように、さりげない言葉かけや対応に配慮するように努めている。援助が必要な時もまずは、本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけ、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	職員は入居者に接する態度や言葉かけには留意し、人生の先輩として尊敬し、教えられる事を喜びとしている。研修会には職員全員が参加している。個人情報に関する資料は鍵のかかるデスクに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者と過ごす時間を通して、利用者の希望、関心、嗜好を見極めるように心掛けており、それを基に日常の中で本人が選びやすい場面を作れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行きたいところへ外出(自宅や買い物等)したり、本人のサインを読み取り、休息場面を作るなど個別対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は、本人と共に行っている。整髪等に関しては、行動できる人は、馴染みの理美容室に行ってもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に料理を作ったり、片付けを行っている。また、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来る雰囲気作りも大切にしている。食事の配膳下膳が出来るように支援している。	「美味しいものを美味しく作って楽しく食べる」をモットーにしている。誕生会だけでなく日々のメニューは希望を聞いて決めている。買出し、食事準備、食事も入居者と一緒に行っている。食事前の準備運動として歌を歌っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量共に、個々の活動量・摂取量・好みに応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝前に口腔ケアを実施している。昼食後には、必要に応じて実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本に、本人の生活リズムに添ったさりげない誘導支援をしている。また、失敗しても本人が傷つかないよう精神面の配慮や周囲にも気を使って対応している。	排泄パターンによるだけでなく、トイレサインを注意深く見守り、さりげなく誘導しトイレでの排泄を支援している。失敗しても尊厳を傷つけないよう配慮している。半数の人は布パンツで、夜間もトイレでの排泄を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に水分補給や乳製品の飲用、繊維質の摂取および運動を促している。便秘や下痢になった場合、医師と相談し、下剤・整腸剤等で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では、入浴の曜日・時間を決めて行っているが、希望があれば対応できるようにしている。	入浴は午後であるが、入居者の希望を優先して対応している。入浴回数は週2~3回であるが他に足湯も利用している。浴槽に入れない人にはシャワー対応している。脱衣場は広くエアコンを設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。一人ひとりの体調や表情、希望を考慮し、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録及び連絡帳には必ず目を通し、会議で伝達し薬の準備・配薬は別の職員が行い、間違いがないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の世話、キッチンの手伝い、洗濯干し・片付け等それぞれに合ったことを出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じ、散歩・買い物・理美容の為の外出を支援している。	敷地内の散歩、近所への散歩や買物以外に、定期的に理・美容院への外出も送迎支援している。月1度安曇川中学でのふれあいカフェにも参加している。季節毎の花見や初詣等に出かける以外に家族と共に外出している入居者も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の買い物は、事業所の立替で行うようにして現金を所持しない形をとっているが、本人の希望がある場合、ご家族と相談して少額所持して頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されたら電話や手紙などの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁面に季節を表現したり季節感を感じて貰える様努めている。トイレの流し忘れや汚れの確認を怠らず、気持ちよく利用できるように努めている。	食堂兼居間は吹き抜けで空間が広く、天窓と広い窓で見晴らしも良く、室内は明るく、アイランドキッチンで会話も弾み、清潔である。壁には季節毎の花や共同作品を飾り、居心地良く過ごす事が出来る。休憩出来るように廊下にベンチを置いている。トイレは臭気も無く清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置いたり、ホールにも大きなソファがあり、一人で過ごせる居場所や仲の良い人と会話出来る場所もある。また、戸外にもベンチがあり気分転換も図れる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れたベットや布団、家族の写真などを置き、居心地良く過ごせる工夫をしている。	居室は畳敷きの上に布団を敷く人やベッドを持ち込む人など利用者の希望に沿っている。座イス、テーブル、ポット、テレビなど使い慣れた物や日用品を持ち込み、写真などを飾り居心地良くしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に生活できる様、手すりを設置。居室やトイレ等、場所が分かる表示をしたりして自立に向け支援している。食堂のイスとテーブルを安全性の高いものにしていく。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けに取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	防災マニュアルの完備がされていない。 消防署・地域住民を伴う避難訓練が出来ていない。	①防災マニュアルの作成 ②消防署の協力のもと、避難訓練の実施 ③地域住民の避難訓練に参加	①連絡方法を整理する ②消防署へ依頼する ③運営推進会議を活用し地域との連携を深めていく	6ヶ月
2	2	自治会の加入はあるものの地域交流が不十分	地域への情報発信をする	広報を作成し、回覧板で回して頂けるようお願いする。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。